

# 小山市事務事業評価シート

令和4年度版

No. 15

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	本場結城紬プロモーション事業		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	② 事業の範囲や経費等について、市の裁量の余地がある事業		事業
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	5 魅力ある自然環境を守り 伝統を継承するまちづくり	<4> 継続業務・新規業務の別
	中項目	5-4 本場結城紬をはじめとする誇れる伝統産業を生かしたまち	継続業務
	小項目	5-4-1 本場結城紬等伝統産業	<6> 担当部(局)
	施策	市内伝統工芸品の普及宣伝	産業観光部
<9> 根拠法令・計画等		<10> 関連・類似事業	
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	7 款 1 項 3 目
<15> 実施手法	一部委託	「その他」の場合 ( )	

## 2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要	おやま本場結城紬クラフト館を情報発信拠点として、アクセスの良さを利用して誘客を図るとともに、本場結城紬や市内伝統工芸品をPRする。		
目的	<17> 事業・業務の目的	ユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬の周知・PRを図る。	
	<18> 事業・業務の対象	一般市民	
<19> 令和3年度の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統工芸士による実演の実施</li> <li>・コースター織体験、本場結城紬の着心地体験を実施</li> <li>・各種ワークショップ教室の開催</li> <li>・市HP、広報、おーラジ、行政テレビでの周知・PR</li> </ul>		

手段	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		指標とした理由		計画	実績	計画	計画
		着心地体験	人	12	4	12	11
		指標とした理由		12	6	12	12

<21> 事業・業務の成果	クラフト館において、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休館していた期間もあり、R2年度は来館者数・売上ともに前年を大きく下回ったが、R3年度の来館者は前年度の倍近く復活し、売上は反比例し半減した。		
---------------	--	--	--

成果	<22> 成果指標 (活動した結果得られた成果の量や実績)	指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		来館者数	人	10,000	4,823	10,000	8,983
		活動指標との関係や成果指標とした理由		10,000	8,983	10,000	10,000
		売上	円	3,000,000	1,638,759	3,000,000	844,979

資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
				計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	計画(予算)
			千円	17,937	17,100	18,956	19,052
		事業費等	千円	10,200	9,363	11,219	11,315
		財源内訳		13,574	13,574	13,574	13,574
		国・県補助金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
		一般財源	千円	10,200	9,363	11,219	11,315
		上記の主な用途		13,574	13,574	13,574	13,574

## 3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1. 妥当である
		理由	ユネスコ無形文化遺産であり小山市の名産品である本場結城紬を広くPRする目的で実施しているため妥当である。
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1. 妥当である
		理由	本場結城紬の良さを知っていただくため本場結城紬の着心地の体験をしていただいております、深い理解につながると考えられるため
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2. 変わらずにある
	有効性	理由	あると思われる。成果として入館者数は戻りつつある。
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1. 妥当である
		理由	ユネスコ無形文化遺産の財産であり小山市の地場産業でもあるため今後も実施することが妥当である。
		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1. 向上の余地はある
		理由	運用の仕方に向上の余地はある。
効率性	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいのか?	2. 中位	
	理由	本場結城紬の振興3本柱の一つとして本場結城紬プロモーション事業として貢献している。	
	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?	1. 向上の余地はある	
	理由	運用の仕方の見直しにより、向上の余地はある。	
	<31> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	1. 妥当である	
公平性	理由	結城市の着心地体験の金額を参考にしたため。	
	<32> 総合評価	2. 改善の余地はある	
理由	3密でも実施可能な駅からハイキングや、スタンプラリー、マンホールカード(配布場所)などの開催により、入館者は増加したが、マラソン大会の記念品などのイベントでの大口発注やコマツフェアなどのブース販売が取りやめになるなどで売上は伸びなかった。今後イベントの開催が再開されることで、売上の改善が見込まれる。		

## 4. Action - 改善 -

事業の改善	<33> 事業の課題 事業の改善点	SNSの活用など、若い人に来館していただけるような、効果的なPR方法を検討していく必要がある。
-------	----------------------	---

## 5 Plan - 計画 -

事業の方向性	<34> 1次評価	所属長	3. 現状維持	理由	一般の小山市民は、本場結城紬が小山で生産されていることを認識されていないと感じる。また小山駅前クラフト館は、本場結城紬の情報発信施設であるが、こちらも同様に認知度が低いのが現状。認知度アップのためにSNSなどの充実が課題である。
	<35> 2次評価	所管部長	3. 現状維持	理由	クラフト館は、好立地でありながらも、認知されていないのが、課題である。もっと活用してもらえるようなPRの仕方が必要である。おやまブランドである本場結城紬を守り、途絶えさせないための方策を見直すために生産者との継続した意見交換、情報共有が不可欠と考える。
事業の計画	<36> 実施計画・今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統工芸士による実演の実施</li> <li>・コースター織体験、本場結城紬の着心地体験を実施</li> <li>・各種ワークショップ教室の開催</li> <li>・市HP、広報、おーラジ、行政テレビでの周知・PR、SNSの活用</li> </ul>			
	<37> 活動・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山市のブランドでもある本場結城紬を広く市民に知ってもらう。</li> <li>・身近な地域の伝統的工芸品に目を向け、和装や結城紬に興味を持ってもらうきっかけづくり。</li> <li>・またクラフト館に行ってみたくなるような事業の展開。</li> </ul>			